

DI (Diffusion Index=景気動向指数) とは
各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業
割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来
の見通し予測を行う。

DIがプラスなら……好転、上昇基調

DIがマイナスなら……悪化、下降基調

記号の見方

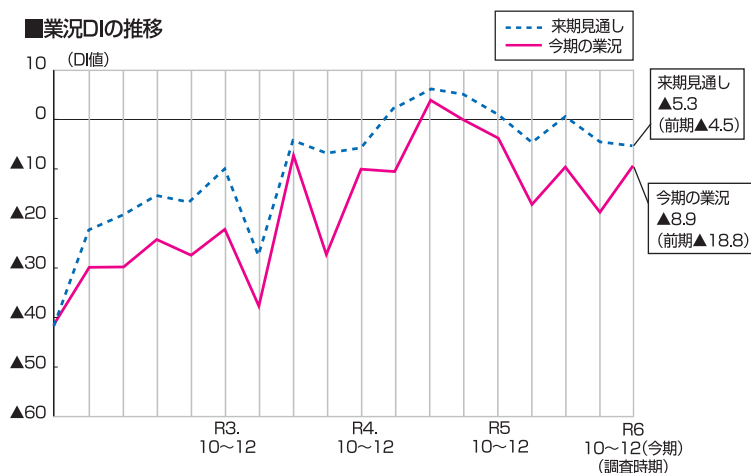
DI値	▲25P以下	▲25～ ▲10P未満	▲10～ ▲10P未満	10～ 25P未満	25P以上
景況	特に悪化 ↓	悪化 ↘	横ばい →	好転 ↗	特に好転 ↑

鹿児島商工会議所

景況調査

調査期間 令和6年10～12月
回答企業数 141社

■業況DIの推移



今期の業況は改善。来期見通しも依然として厳しい状況づく。

【今期(令和6年10～12月期)の業況】
全産業の業況DI値は、▲8・9
(前期比プラス9・9ポイント)と改善した。産業別に見ると製造業と小売業でそれぞれ前期比プラス36・2ポイント、プラス22・4ポイントといずれもDI値は増加した。

【来期(令和7年1～3月期)の見通し】
全産業の来期見通しは、▲5・3
(前期比マイナス0・8ポイント)と前期から悪化した。産業別では小売業に悪化が見られ、そのほかの産業では横ばいの数値となっている。

■産業別DI値表

		前期 [R6.7~9] (A)	今期 [R6.10~12] (B)	増減 (B)-(A)	来期見通し [R7.1~3]	
業況	全産業平均	▲18.8	▲8.9	9.9	▲5.3	→
	製造業	▲30.3	5.9	36.2	▲2.9	→
	建設業	▲12.5	▲9.1	3.4	▲4.5	→
	卸売業	▲8.3	▲8.3	0.0	0.0	→
	小売業	▲39.1	▲16.7	22.4	▲19.0	↘
	サービス業	▲5.9	▲19.4	▲13.5	▲3.0	→
売上額	全産業平均	▲10.0	▲2.9	7.1	▲7.9	→
	製造業	▲18.2	34.3	52.5	▲11.4	↘
	建設業	▲36.0	▲21.7	14.3	▲8.7	→
	卸売業	4.2	▲4.2	▲8.4	20.8	↗
	小売業	16.7	4.0	▲12.7	▲25.0	↘
	サービス業	▲11.8	▲34.4	▲22.6	▲12.1	↘
資金繰り	全産業平均	▲11.8	▲5.8	6.0	▲8.0	→
	製造業	▲12.5	2.9	15.4	▲14.7	↘
	建設業	▲20.0	▲8.7	11.3	▲4.3	→
	卸売業	▲12.5	▲16.7	▲4.2	▲12.5	↘
	小売業	▲8.7	▲16.0	▲7.3	▲12.5	↘
	サービス業	▲6.3	3.1	9.4	3.0	→
採算	全産業平均	▲16.7	▲2.2	14.5	▲8.0	→
	製造業	▲27.3	14.7	42.0	▲2.9	→
	建設業	▲20.0	▲17.4	2.6	▲21.7	↘
	卸売業	0.0	4.2	4.2	4.2	→
	小売業	▲12.5	0.0	12.5	▲20.8	↘
	サービス業	▲18.2	▲15.6	2.6	▲3.0	→

【今期の売上額・資金繰り・採算】
全産業の売上額DI値は、▲2・9
(前期比プラス7・1ポイント)となった。産業別では製造業が前期からプラス52・5ポイントと改善し、卸売業、小売業、サービス業は悪化している。

全産業の資金繰りDI値は、▲5・8
(前期比プラス6・0ポイント)となり、産業別では製造業、建設業、サービス業においてそれぞれ改善が見られた。

全産業の採算DI値は、▲2・2
(前期比プラス14・5ポイント)を示した。各産業いずれの数値にも改善が見られ、中でも製造業がプラス42・0ポイントと増加した。

【回答企業のコメント】

- ・物価高騰への対応策として、これまで据え置いていた加工賃の値上げによる価格転嫁を検討している。(製造業)
- ・人材不足が深刻化しており、熟練技術者の確保が困難な状況となってきた。(建設業)
- ・コストカット実現のため郵便を問わず請求書をメールで送付するなど社内業務のデジタル化をすこしずつ進めている。(サービス業)